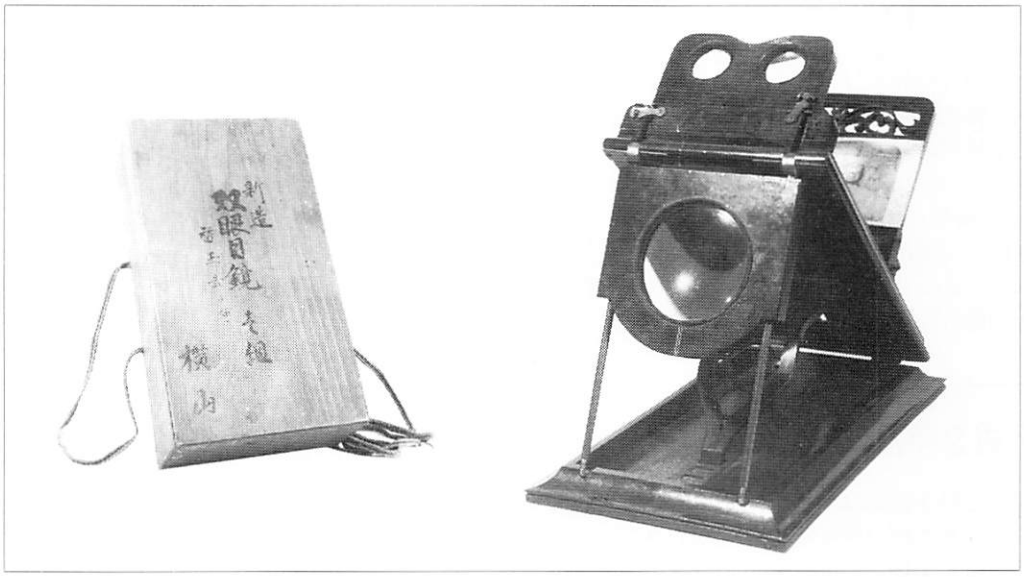
SARANIP No.30

市立函館博物館館報 1991. 3. 15

# 横山 松三郎の
# 〝新造双眼目鏡 壱組〟



日本の西洋画、写真術の先覚者である横山松三郎については、1990年10月に発行した『市立函館博物館研究紀要』で伝記と博物館所蔵の横山松三郎関係資料を紹介したが、この〝新造双眼目鏡〟も横山が作製したものである。写真史研究家もこれが何であるか結論が出せなかったほど珍らしいものである。

単眼のレンズと双眼の目鏡が交互に固定できる仕組で、透飾りのある木製ニス仕上げで真鍮を使用した細工の凝ったものである。

明治17年の門弟によって書かれた「横山先生履歴」を時代考証しながら解読して、彼が偉大な研究家で、博学者であったことがわかった。文久元年(1861)には西洋画、写真術をロシアの初代領事ゴシケビッチや、画家レーマンから学んでいた。

松三郎が見聞を広げたのは、箱館奉行が海外貿易の試みとして健順丸を上海に派遣したときで、松三郎は商法取扱手附として乗船し、1864年に諸術調所の学生らと1カ月半も上海に滞在した。イギリス、フランス、アメリカの写真術と西洋画に関する知識を得て、写真機、接写レンズなどを手に入れたが、その頃流行していたステレオ・スコープ(立体写真)を知り、レンズなどを購入した。日本では初期のことで、この新造双鏡目鏡とは、松三郎がガラス立体写真とガラス原板修正などの研究と制作に使用したもので、明治2年頃には完成していたものである。

明治6年頃の函館では渡辺熊四郎が立体写真をみせた写真監視(のぞき)眼鏡店を開業して、かなりの利益を得たことがあるほど立体写真が流行した時期でもあったのである。

この新造双眼目鏡はガラス原板などと東京都写真美術館の特別企画展に出品している。

〈学芸係長：千 代　肇〉

# 平成2年度 特別展『五稜郭 inヒストリー』成功裡に終了

南北海道の各地に残る、中世から幕末・明治維新にかけての歴史の跡を紹介した、特別展「五稜郭 inヒストリー」が7月10日から10月21日までの90日間にわたって、博物館五稜郭分館を会場にして開催されました。

今回の特別展では大きく三つの時代に分け、「中世から近世の蝦夷地」は、和人の渡来と定着・北前船の繁栄・北辺警備の開始、「幕末の箱館・松前」は、開港と箱館奉行の役割・五稜郭と福山城、「明治維新・激動の舞台」は、開陽丸と箱館戦争というテーマに沿った展示構成にしました。

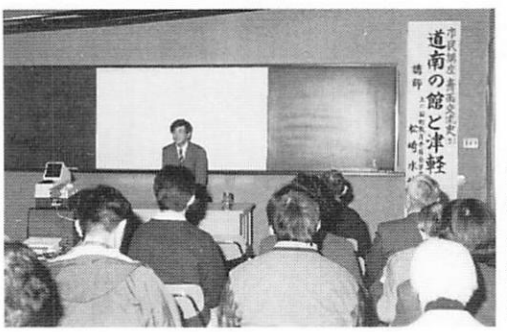
北海道に和人が渡来して定着するようになるのは、およそ室町時代頃であり、志苔館跡・上之国勝山館跡などの豪族の館跡に、当時の交易の様子がみられます。松前氏の登場によって日本海の海上交易が活発となり、北前船を操る商人が急速に台頭して、松前・江差・箱館の三湊が繁栄します。18世紀末頃に外国船が到来するようになると、幕府が蝦夷地を直轄して松前・箱館方面を中心に警備が行われます。そして、箱館開港という大きな変化があり、それに伴い箱館に奉行所として築造された五稜郭が、蝦夷地の中心地としての役割を果たして行くことになります。しかし、明治維新の際には箱館戦争の舞台となり、戦いの後には五稜郭の重要な機能は失われます。このような移り変わりの様子を、比較的身近かにあり、またごく普通のものとしか見えないような、史跡からの出土品を通してみることにしました。こうすることで、五稜郭と松前藩戸切地陣屋そして松前福山城などの点が線となってつながり、それぞれがどのように関連しているかなどがある程度理解いただいたのではないでしょうか。

ただ、五稜郭というとどうしても箱館戦争のイメージばかりが強くあり、古戦場としか思われていない傾向にあるようで、奉行所として造られたものであることは薄れがちとなっています。そこで、長い歴史の中で五稜郭が果たしてきた役割やたどってきた移り変わりといったものの一端を、今回の展示によって少しでも理解されたものと思います。

〈学芸員：田原 良信〉

## 平成2年度の普及事業から

市民講座と科学教室は、当館の普及事業として毎年開催していますが、今年度は例年以上の講座数を企画開催いたしました。市民講座15講座、科学教室12講座の計27講座で、内容的には、昨年度好評を得た青函交流史シリーズを継続して開催、その他考古、民族、自然科学と幅広い分野で、対象も大人から子供まで楽しめる講座をできるだけ多くしたことも今年度の特色のひとつです。お陰様で704名という多くの方々にご参加いただきました。参加された方の中には初めて博物館に来た人、博物館でこのような講座があったのを知らず、また参加したいと考えている人なども多かったようです。




青函交流史「道南の館と津軽」 松崎水穂氏

「洋食発祥地箱館」 若山徳次郎氏

このように、博物館を市民の方々により親しんでもらい利用していただくためにも、市民講座・科学教室に多くの方が受講することが重要なことだと考えます。そのためには、講座のＰＲ、講座内容の充実、定員、対象者などさらに検討し、改善しなくてはなりません。高度化、個別化している時代に対応し、幅広い市民の方々のニーズにどう答えていくかが今後の博物館普及活動の課題となってくるでしょう。

博物館の学芸員と市民の方々との接点でもある市民講座・科学教室を来年度も充実した内容となるよう企画しています。ぜひ今年度以上の多くの方々、特に未来を担う子供たちに多く参加していただけたら幸いです。

〈学芸員：尾崎　渉〉

## 事業報告（2.1.1.～2.12.31）

## ◎資料管理・整理・保存

### ○受入

◦練炭ストーブ他　4件
【川村兼悦郎氏寄贈・函館市亀田本町6－15】
◦六分儀（セキスタント）他　4件
【深宮彦弘氏寄贈・函館市田家町3－17】
◦写真週報　一括（27点）
【谷口幸一氏寄贈・函館市美原5－14－4】
◦鉛足　一括（19点）
【中田　勇氏寄贈・函館市根崎町34－2】
◦田辺三重松 資料　一括（102点）
【田辺彩子氏寄贈・東京都品川区大崎5－4－17 第2サンライズ 五反田509】
◦唐美人図　1件
【高橋教友氏寄贈・函館市中島町18－18】
◦棒ばかり他　3件
【青山晴夫氏寄贈・函館市青柳町39－1】
◦電蓄　1件
【加納裕之氏寄贈・函館市鍛冶1－26－9】
◦逸見式計算尺他　5件
【谷口幸一氏寄贈・函館市美原5－14－4】
◦エゾクロテン　1件
【中村二郎氏寄贈・函館市上湯川町4－33－308】
◦チョッキ　1件
【萩野扶美子氏寄贈・函館市人見町12－11】
◦伸子張道具　1件
【渡辺　淳氏寄贈・函館市西旭岡町2－11－4】
◦ポスター　1件
【小田島水産食品K.K寄贈・函館市弁天町20－7】
◦ベッド　1件
【児玉マリ氏寄贈・札幌市東区北11条東1丁目】
◦油彩　榎本武揚像　1件
【下山正八氏寄贈・札幌市豊平区平岸 1条7丁目3－25】
◦勲功章他　27件
【斎藤久子氏寄贈・函館市日吉町1－7－9】
◦待宵草図屏風他　45件
【本山透英氏寄贈・江別市大麻高町3－30】
◦レール　4件
【太田幸夫氏寄贈・札幌市北区太平 2条5丁目3－18】
◦看板他　3件
【株式会社 ジャックス函館支店 支店長 守村禎太郎氏寄贈・函館市若松町15－7】
◦帳簞笥他　2件
【対馬清治氏寄贈・函館市船見町20－8】
◦レコード　18件
【米谷和俊氏寄贈・函館市中道1－13－15】
◦バララライカ　1件
【佐久間　要氏寄贈・函館市湯川町3－46－5】
◦ガンジスワニ　1件
【喜多豊一氏寄贈・亀田郡七飯町字大沼町470－12】
◦金懐中時計他　2件
【葛西公平氏寄贈・函館市本町5－10】
◦理髪用椅子　1件
【物井キミ氏寄贈・函館市湯川町1－7－27】
◦ふいご　1件
【後藤俊助氏寄贈・函館市上新川町1－13】
◦一斗ます　1件
【木村吉造氏寄贈・函館市宝来町8－9】
◦レコード　43件
【石田宣子氏寄贈・函館市松陰町27－30】
◦マキリ他　3件
【阿部尤三氏寄贈・美唄市東2条北2丁目】
◦狛犬他　94件
【青函博実行委員会・保管替え】
◦開陽丸模型他　2件
【三島義光氏寄贈・函館市石川町134－134】
◦柄鏡　1件
【高市道也氏寄贈・函館市白鳥町13－2】
◦植木弥三郎像写真他　58件
【有限会社 オータス　代表取締役 佐藤真喜子氏寄贈・函館市本町23－4】
◦靴屋関連資料他　23件
【小田島　優氏寄贈・函館市若松町29－3】
◦北洋資料館所蔵資料　一括
【函館市北洋資料館・保管替え】
◦アイヌ狩猟絵図　1件
【購入】

### ○整理

◦自然科学資料（植物）整理
◦考古資料整理

### ○保存

ばく涼　本館　10月9日～10月21日
　　分館　10月29日～11月2日

### ○貸出

◦板橋区郷土資料館「日本近代工業の夜明けと板橋」展示　4件
（2月13日～3月28日）
◦東京ルネッサンス「奥州みちのく街道展」展示　4件
（3月3日～3月17日・上野松坂屋）
◦北方歴史資料館常設展示　1件
（4月1日～3月31日）
◦北海道開拓記念館「北に生きた会津武士と農民－福島県と北海道－」展示　1件
（4月21日～8月10日）
◦「くらしと計量展」展示　6件
（6月8日～6月26日・函館市役所1階市民ホール）
◦函館市消防本部展示　3件
（10月20日～平成4年3月31日）
◦社団法人 霞会館「戊辰の波濤展」展示　3件
（11月17日～11月30日・小田急百貨店新宿店）
◦札幌芸術の森美術館「梁川剛一さし絵展」展示 119点他
（12月19日～5月31日）

### ○出版

3月15日　館報「サラニップ No.29」発行
7月10日　特別展図録「五稜郭 in ヒストリー」発行
10月1日　市立函館博物館研究紀要 第1号発行

### ○写真撮影・提供・転載許可

博物館資料の写真撮影など　71件

### ○実習生受入（17名）　7月31日～9月25日

北海道教育大学函館分校　14名
札幌学院大学　1名
信州大学　1名
新潟大学　1名

### ○調査・視察・団体観覧（省略）

## ◎会議出席

### ○博物館大会

第29回 北海道博物館大会に木村館長 外4名
（7月11日～12日 江差町）

## ◎人事異動

宮川絵里香　臨時職員退職（6月30日付）
蛯子 靖子　臨時職員採用（7月1日付）
前川久美子　臨時職員退職（8月15日付）
田島 明子　臨時職員採用（8月16日付）

## ◎展 示

### ○特別展

五稜郭 in ヒストリー（分館　7月10日～10月21日）

### ○企画展

新収蔵資料展（本館　9月18日～10月7日）

## ◎教育普及

### ○市民講座（15回 387名）

外国人が歩いた先史の遺跡（5月12日）
津軽海峡の石器時代（5月19日）
函館と青森の縄文世界（6月9日）
母と子の土器づくり会（6月10日）
先アイヌ文化と和人の渡来（6月23日）
完成した手づくり土器（6月24日）
青函交流史(4)「津軽の遺跡と箱館」（7月15日）
特別展解説講座「五稜郭 in ヒストリー」（7月22日）
市電の移り変わり（8月7日）
母と子の天体観測会（8月11日）
洋食発祥地箱館（9月8日）
函館の都市形成（9月22日）
アイヌ風俗十二ケ月絵風秘話（10月6日）
プチャーチン来航とディアナ号の大砲（10月27日）
青函交流史(5)「道南の館と津軽」（11月25日）

### ○科学教室（11回 317名）

天体シリーズ① 春の星座物語（5月12日）
函館山の植物かんさつ（5月13日）
天体シリーズ② 星空観測会（6月16日）
昆虫かんさつ会（7月15日）
鉄道車両のしくみとJR運転所見学会（8月9日）
自然林と木工作（8月17日）
天体シリーズ③ 夏の星座観測会（8月25日）
天体シリーズ④ 秋の星座と天の川（9月8日）
天体シリーズ⑤ 天体望遠鏡の使い方と月の観測会（9月22日）
自然とふれあい教室（10月28日）
天体シリーズ⑥ 冬の星座物語（11月17日）

## 入館者統計

平成2年 常設展示（H. 2. 1. 1～H. 2. 12. 31）

| 月別 | 本館 | 分館 | 資料館 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 156 | 621 | 329 | 1,106 |
| 2 | 208 | 2,259 | 574 | 3,041 |
| 3 | 791 | 4,026 | 1,087 | 5,904 |
| 4 | 1,662 | 7,006 | 973 | 9,641 |
| 5 | 3,495 | 21,034 | 2,846 | 27,375 |
| 6 | 1,452 | 14,877 | 2,274 | 18,603 |
| 7 | 1,327 | ,603 | 1,977 | 3,907 |
| 8 | 2,261 | (特別展)－ | 3,515 | 5,776 |
| 9 | 2,673 | (特別展)－ | 2,815 | 5,488 |
| 10 | 780 | (特別展)－ | 1,667 | 2,447 |
| 11 | 399 | 5,784 | 635 | 6,818 |
| 12 | 226 | 1,766 | 459 | 2,451 |
| 計 | 15,430 | 57,976 | 19,151 | 92,557 |

平成2年度 特別展　五稜郭分館（7/10～10/21）

| 月別 | 個人 | 団体 | 計 |
|---|---|---|---|
| 7 | 8,577 | 992 | 9,569 |
| 8 | 22,976 | 923 | 23,899 |
| 9 | 10,278 | 1,600 | 11,878 |
| 10 | 6,207 | 1,483 | 7,690 |
| 計 | 48,038 | 4,998 | 53,036 |

## ―― あとがき ――

※観光ブームの函館、多くの人々が博物館を観覧し、函館の文化を理解してゆきます。

Hakodate City Museum News
SARANIP ―サラニップ― No.30　1991. 3. 15発行
編集・発行　市立函館博物館（TEL 0138-23-5480）
北海道函館市青柳町・函館公園内（〒040）